

KSKQ

ゆうとおん

通信

NO.124	2022 年 4 月号	郵便振り込み口座 00910-9-106532
編集人 (社福) ゆうとおん通信 編集委員会 八尾市久宝園 2-30-4		

一九九一年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行 定価50円



「おはようございます」と朝出会った職員一人一人に「いねいにあいさつ。職員も笑顔になります。人一倍恥ずかしがり屋だし、少し緊張してしまうけど、人が大好き！最近、積極的にいろんな人と話をして楽しく過ごせています。今の希望を聞いてみると「みんなと仲良くしたい。みんなとや」と正直な気持ちがあふれます。毎日、作業室の窓際のポカポカ暖かい光の差す席に座り、たくさんのメンバーさんと職員と仕事を頑張っています。とても感受性が豊かで、みんなの様子をよく見ていて気にかけてくれます。「大丈夫？」「大丈夫ですよ」が大切なやり取りです。

辻本 亜希子 (つじもと あきこ)

1980年4月生まれ 42歳

地元八尾市の小中学校を卒業。八尾支援学校

高等部卒業後、ゆうとおんへ。現在は、ゆうとお

んほ一ふ2階内職班で活躍中。

ここで、生きる ひとシリーズ No. 20

職員とゆつくり話したいときは、散歩に出かけて女同士でおしゃべりするのも大切な時間になっています。道ですれ違う人に「すいませ〜ん」と道を譲ったり、お店では「こんにちは。お願いします〜」と元気に挨拶したり。「オーライ！オーライ！」と車を誘導してくれることも。ある時、お母さんを励まそうとしっかりと肩を抱いた姿に母を思う優しさとたくましさを感じ、職員が感動してしまったこともありました。そして、職員への「ありがとう」の言葉にいつも暖かい気持ちになり、支えられています。

大好きなのは食後のコーヒー。『モカ』が今のお気に入り。字を書くことや手紙、きれいな色も。そして、亜希子さんと言えば…音楽です。歌うことも大好きです♪コロナで活動休止中のゆうとおんバンドのメンバーで、曲が流れると自然に体が弾みます。特にザ・ブルーハーツが大・大・大好きで『青空』は、定番の一曲です！

さあ、今日も青空を見上げて。心配しなくても大丈夫。亜希子さんは、みんなを幸せにしていますよ。

語り手 西村博子

みんなでできる会 With コロナ

みんなでできる会は、2021年度もオンライン会議が中心でした。メンバーさん達はオンラインで話をする事になかなか慣れてきている様子です。しかし、「実際に顔を見て話をしたい」という意見が圧倒的に多く、前年度と同様「コロナ禍で何が出来るのか？」と模索し続けた1年間でした。2021年度の大きな活動としては、9月にピープルファースト大阪での勉強会をゆうとのおんが任されました。テーマは「虐待について」。2017年にもみんなでできる会で虐待について勉強し、発表する経験をした方も数名いますが、オンラインで勉強会を主催することが初めてで、当事者も支援者もどの様に進めて行けば良いか手探りのなか準備をしてきました。パソコンの画面越しでの会話は、表情が分かりにくいことや、音声のズレなどもあるので難しい状況でしたが、一人一人しっかり意見を発表し、虐待について改めて考えさせられる機会となりました。12月は、障大連セミナーがオンラインで開催されました。セミナーの内容は「グループホーム再編について」でした。障害者総合支援法に基づいたグループホームの再編に関する試案となり、「現在の3類型ある障害者グループホームを、重度者向け（一般型）グループホームと比較的軽度者向けグループホーム（自立生活移行支援型）の2類型へ変更する。また、軽度者向けグループホームは入居期限を3年程度とする」という今までのグループホームでの生活が一変してしまうかもしれない内容を学ぶセミナーでした。

きめる会では、グループホーム住まいの方だけの問題ではなく、自分の問題として考える事が出来るよう、より詳しい勉強会が必要だと思っております。しかし、この問題については、説明が難しく、みんなで考える問題としての様にとり組んでいけば良いか今後の課題となっています。2022年度も対面での会議は難しいかもしれませんが、コロナで様々な経験が出来ない状況の中、当事者中心に話し合い、助け合い、積極的に意見を出し合える環境を作っていければと思っております。

2021年7月

～ピープルファースト兵庫大会～
今年もオンラインで参加しました！！



2021年12月

～ピープルファーストオンラインお茶会～
手品やゲームで大盛り上がりでした☆



ぜんたいけんしゅう ぎゃくだいぼうしけんしゅう
ゆうとおん全体研修～虐待防止研修～

2021年12月9日 ありありす&Zoom リモート研修

こうし にしのみやししゃかいふくしきょうぎかい きょうせい けんきゅうじょ
講師：西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり研究所
しよちよう きたの せいいちし
所長：北野 誠一氏

2021年12月9日に北野先生をお招きして、虐待防止の全体研修を開催しました。

今回のテーマの研修は少なくとも一年に1回は開催する必要があります。現場での支援に関連したことから考えていけるよう「ヒヤリハット報告」等、虐待の芽となるものが含まれているかもしれない部分から、お話しをして頂きました。

今まで、虐待という言葉は知っていても虐待と言う物は見たことがありませんでした。自分では気が付いていないだけで、メンバーさん達に不快な思いをさせていたかもしれません。その中でもネグレクト(心理的虐待)をしていたのかもしれない思いになりました。誰もがその日の体調や気分により接し方が違うことも多々あると思います。自分ではしていないと書いていても相手にとってはそれがとても辛かったりするかもしれません。常に相手の立場に立って支援しなければならないと思います。虐待防止、早期発見は大切なことだと思います。

虐待はあってはならない事だと思っていますが、実際にはニュースで報道をされていたり、色々な場所で起こっているのですね。当事者の方、一人一人にどのような支援が必要なのか、どのような対応をしたら良いのかなどは、日々の職員同士の情報共有や意見交換が最も重要なのではないかと思います。いろいろな人たちの意見を聞き、自分自身の今後の成長にも繋がればよいと思いました。

支援者側にもライフヒストリーがあり、それを理解、共感しておかないと相手の成育歴や生活歴を知ったとしても、相手の生き様に対する理解、共感はその簡単には得られないという所が凄く納得出来ました。まずは自分自身を知る事が理解、共感に繋がっていくとしたら自分はどうなのか？わかっているようで、わかっていない部分の方が多い気がしました。これを機に一度自分を見つめなおすのもいいかもしれないと思いました。

慣れてきて、少し雑になってくると、言葉も汚くなるかもしれないので、改めて考えて対応をして、利用者さん第一にしていくことが必要。利用者さんの小さい変化にも気づく事が大事。不安定になった時は特に利用者さんに寄り添えるように関わりをしていきたいと思いました。

今回の研修で思った事は日頃、利用者さんに善意と思ってしている事が、自分自身の思い込みで間違っていれば、むしろ相手を傷つける結果になりかねない。そのように考えると「あれもダメ」「これもダメ」と可能性を閉じ込めてばかりではいけないと思います。しかし、目の前の一つ一つの出来事に一喜一憂せざるを得ないとしても自分自身が没頭せず、利用者さんの持っている自主性、自律性を見ていく姿勢が必要なのだと思います。

今年度、1年間お疲れ様でした。研修の機会を通して日々のより良い支援に生かして行けるようになればと思います。2022年度もよろしくお願ひします。



ゆうとおんはーと

6年前、はーとの玄関に植えたミモザの木が、春の訪れとともに満開の花を咲かせています。

ゆう(You)とおん(tone)の名に様に、ひとりひとりの思いや気持ちを大切にしながら、ゆるやかな曲線を描くように進んでいきたいとおもいます。

さをり

今年のさをり班は、系の色選びから作業の工程も、自分ができることはなんでも

取り組み、いろいろなことにもチャレンジしていきます！メンバーの自信に満ち溢れた笑顔がたくさん見られるよう、職員も全力でサポートしていきたいとおもいます。みんなの成長を少しずつでもたくさんの人に見てもらえるよう、昨年からのSNSサイトに完成した作品を載せています。いろんな人たちから「いいね」がもらえると、みんなの励みになりますので、ぜひ、のぞいていただけたらとおもいます。

軽作業

昨年度同様、コロナ感染予防の為、1階と2階にわかれて作業しています。その為、1階と2階への資材運びや、メモによる伝言等を継続してきました。最初は一人だと

恥ずかしくて出来なかった事もありましたが、今では皆さん一人でも行けるようになったり、他のメンバーさんを誘って楽しみながら取り組むことが出来る様になりました。今年度は、軽作業班内だけで止まらず、他の班へ資材を運ぶ事をチャレンジしようと思っています。小さな事からですが、自信へと繋げてもらえればと考えております。

すもーる

10月から利用者が一人増え半年が経ちました。すもーるの雰囲気慣れて、以前からいる利用者ともども楽しく過ごしています。一人増えた影響もあり、軽作業班から

受けての作業プラス、すもーるはーと単独でプラスチック製品の内職を始めました。量が多く慌ただしく作業しています。現在はマグカップを取り扱っていますが、他の商品を取り扱う可能性もあるかもしれないので、その対応に注意していきたいとおもいます。

パン・喫茶

2021年度も沢山のパンをご購入頂きありがとうございました！2022年度のパン工房と喫茶は、9名体制でスタートします。パン工房に新しいメンバーさんが

増えます♪ 既存メンバーは仲間が増えることにワクワクが止まりません！！
コロナウイルスの影響でパンの製造量は激減していましたが、また少しずつ外部販売が再開し始めています。基礎作業を見直しながら、一人一人が楽しくパン作りに取り組むことが出来ればと考えています。



としょかん ほーぷ図書館 できました！！

ほん ざっし みる すき ほう おおい そうこぶぶん ゆうこうかつよう としょかん
 こーなー つくりました ひるやすみ ぎょうちゆう きゅうけい とき はいって
 コーナーを作りました。昼休みや、作業中の休憩の時にちよっと入ってひとや
 すみ。ジャンプやコロコロコミック、ウルトラマン、仮面ライダー、プリキュア♥
 鉄道ファンや、ホビージャパンなどのマニア向けの本まで。靴を脱いでゴロンと
 寝転がって見るもよし。ベンチに腰かけてみるもよし、机に座って勉強スタイルで
 見るもよし。これからも図書委員さんとみんなの見たい本のリクエストをきいたり
 して、皆が楽しめる図書館になればいいなと思っています。



としょいいん かわばた
 図書委員 河端さん！！
 1人でコツコツ、ラベルを貼ってくれ
 ました。河端さんも本が大好きです。これ
 からもよろしくね！



おすすめ！！
 M.Y.さんが読めば笑いごとまらない
 『おかんメール』

そのうち
 韓流コーナーもつくりたいな…



かみす はん
うえーぶ紙漉き班

がつはつばいよてい
5月発売予定

ていか えん まいい
定価250円(3枚入り)

うえーぶ紙漉き班から新商品の紹介です。
この度、読書には欠かすことのできない「葉（しおり）」を作ってみました。
シンプルながらも可愛く実用性のあるものをいくつか紹介していきます。



ページ角にピシッとかわいく収まる三角しおりです。ずれにくく機能的！

ユニークなもの



ベーシックなタイプ サイズもいろいろあります

しおり使用者の感想：

- ・読書離れ等と言われていたのですが、本を読む人には紙の持つ良さ（触覚 や 1冊1冊の違い）を好んでおられる方も多いと思います。私もその1人で子どもの頃からしおりもたくさん使ってきました。新商品は少し変わった形状ですが存外使いやすく、見た目にも可愛らしく、読書の時間がより豊かに楽しくなります。ぜひ一度お手にとっていただければと思います。
- ・様々な色や柄があり、しおり以外にも付箋代わりに使用してみたりと「三角しおり」は使い方が多様であると感じました。
- ・しおりを使いたいので、たくさん本を読もうかなって考えてます。

『生活の場わらゆん、この1年を振りかえって・・・』

「2021年春」のできごと

コロナ感染の広がりとともに、2021年度はスタート。4月後半から、緊急事態宣言。手指消毒、マスク、フェイスシールド、食事のとき距離を取る、などが日々の習慣となっていく。ガイドヘルプの行き先なども限られ、生活が単調になる。それでも、感染の広がりを抑えるために、みんなで力を合わせようと呼びかける。つながりのある障がい者団体などでも、コロナ感染が広がり、たいへんな状況が伝わってくる。ゆうとおんでも、同じようになっても不思議ではないと思いつつ、懸命に感染対策に取り組んでいった。

「2021年夏」のできごと

6月後半から、まん延防止等重点措置へ。7月後半には、GHスタッフで事例検討会を実施した。スタッフそれぞれの想いを出し合う貴重な機会となった。8月初めから、緊急事態宣言へ。東京オリンピック期間であった。ホームでも、限られた動きのなかで、オリンピックをテレビで楽しめる姿も見られた。

「2021年秋」のできごと

9月いっぱい、緊急事態宣言が解除される。感染者が非常に少なくなり、このまま収束していくかという期待がふくらむ。ガイドヘルプなど、外出も少しずつ再開。みんなで少し遠出できたホームもあり、久しぶりに楽しいひと時を過ごすことができた。その一方で、変異株が現れるなどのニュースも伝わってくる。

「2021～2022年冬」のできごと

1月初めから感染者が増え、1月後半には、まん延防止等重点措置へ。2月から3月にかけて、大阪府でも感染者が爆発的に増加。八尾市でも、一日に何百人という感染者が発生してきた。そのなかでも、これまで何とか踏ん張ってきたが、ゆうとおん内でも感染者が複数名発生。GH入居者で濃厚接触者となられ、待機される方が数名出られる。その後、GH入居者で感染される方が数名出られるも、ほぼ軽症で回復される。



このようにコロナに向き合い続けた一年であった。計画していた、研修や対外活動への参加、当事者活動や宿泊実施について進めていくことは困難であった。2021年、GHの課題は、高齢化への対応含めて支援の充実、ショートステイ稼働などであった。高齢化への対応では、医療や日中事業所、関係機関と連携し、いろいろな課題に取り組んだ。当事者の様子の変化していくと、どうしても以前と比較してしまい、こんなはずでは・・・、どうしたのか・・・など、ご本人の姿を受け入れられないときがあった。精神科医の稲垣先生からは、変化を成長として捉えてみてはどうかとの話があり、深く感じ入り考えさせられた。ショートステイでは、GHの本入居へステップアップされた方が出るなど、一定の役割を果たすことができた。

2022年度は、2021年度に引き続いて、高齢化対応など各GHでの支援の充実、研修や対外活動の進展、当事者活動や宿泊の実施などを進めるが、コロナ感染の広がりをみながらの取り組みとなるであろう。また、多様な「くらしの場」のあり方についてのプロジェクトチームでは、場の実現に向け具体的な議論を始めていきたい。

(前田 裕)



4月から、ぼちぼちいこかに念願の新メンバーが入ってきます♪火曜、水曜、時々日曜ぼちぼちいこかでお仕事をされます。

一人増えることで、活気が出て、にぎやかになるので、若手と一緒に働くことが楽しみです。若い力と発想で新しい風をふかしてほしいなと思います。今後の活躍に期待しています！！

月曜、木曜、隔週金曜は、配達のお仕事で、メンバーさんとの関りが減ってしまうので、もったいないなあ…というのが本音です。が、その分、火曜、水曜、時々日曜で、メンバーさんと楽しく、時にぶつかり、メンバーさんに沢山のことを教えてもらいながら、成長してもらっていただけたらなと思います。

阪上さんのことを知っている方も多のですが、改めて阪上さんの生態をご紹介します。

ぼちぼちいこか 中西・国本



さ
阪

う
上

あ
明

り
里

人と話すことが大好き

どんくさい...(泣)

道に迷いやすい
(みちに まよいやすい)

運動が得意
↳ テニス部でした!!
(中学の三年間だけ...)



家ではYouTube見たりしています

↳ 平成フラミンゴ・光ママ
(へいせいふらみんご・ひかりママ)

動物が大好き
↳ 特に犬が好き
(どうぶつがだいすき
とくにいぬがすき)

ジャニーズが大好き
↳ 嵐・Kis-My-Ft2・関ジャニ∞
のLIVEによく行っていました。

(じゃにーすが だいすき
あらし。きすまいふとつー・かんじゃにえいとの らいぶ
に よくいってました)

好きな食べ物は お寿司
きらいな食べ物は フルーツ・梅干し



食べているとき、寝ているときが幸せ
(たべているとき ねているときがしあわせ)



A型 やぎ座
(えーがた) (やぎざ)

そうだんしえんじぎょうしょ
相談支援事業所 のびやか 2022年度の抱負

まつだ けんた
松田 健太

すっかり春めいた気候になりました。寒く長かった冬が終わり、少しほっとした気持ちにさせてくれます。TVでは連日、ニュースで戦争を伝え、同時に、開幕したばかりのプロ野球の試合結果を教えてください。そんなコントラストが日常を彩っていて、なんてことのない普通の暮らしを際立たせて教えてください。そして特別良いこともなく、特別悪いこともなく、だいたい毎日そんな感じで過ぎて行き、気付いたらまた一年が過ぎていました。(一年ぶりの原稿なので)

そんな一年を振り返って、相談支援業務の方はと言えば、例年通り、ばたばたとした一年でした。

この一年は色々な相談員に会う機会があって、一緒に事業所を回る事も何度かありました。あまり他人の暮らしぶりに興味がない事務的な相談員や、あれこれと自分の価値観を前面に押し出す相談員、その仕事の頑張りに対して不当な評価を受けている相談員など、相談員も様々です。おせっかいな人は、いつでも誰かの役に立ちたいと思っている人でもあり、それが行き過ぎると、他人の人生に干渉し過ぎることもあるのですが、でも相談員には、そんな人が向いていると思うことがあります。誰かの人生をより良いものにしたいという動機があってこそ、困難で面倒な事にも向き合っていけるはずですよ。

よく、好きな仕事と向いている仕事は違っていて、どちらかを選べるならば、好きな仕事よりも向いている仕事を選ぶ方が成功できる、と言われていました。

そもそも成功ってなに?というのはい今回のメインテーマではないので論じませんが、よりストレスなく続けていけるのは、好きかどうかよりも、向いているかどうかにか大きく影響を受けるのは間違いありません。この数年でも、望んで相談員に就き、やりがいを持って相談員をされていた方が、燃え尽きて退職していくのを何度も見ました。その事は、好きだという気持ちは、諸刃の剣であることを物語っています。

どんな仕事も社会生活の中で必要とされているからこそ、仕事として存在しているわけですが、相談支援専門員と名づけられた仕事もまた、誰かの人生に大きな影響を与える尊い仕事です。

好きだからこの仕事に就いている人も、たまたま向いているから任された人も、誰かの人生を大きく変えうる可能性のある大変な仕事であるという事を忘れないでいたいものです。

最後に、今回の戦争に関して、識者の中でも様々な見方があり、意見も割れています。特に争いの発端は?となると、東側(ロシア側)と呼ばれる国々から見えるものと、西側(欧米側)から見えるものとは、見え方が一変します。

非人道的な行為に対して、擁護する余地は一切ありませんが、一般的な日本人の私たちが見ているものが絶対的な真実ではない事を、私たちは知っておかなければいけないと思います。

少し大げさになりますが、相談支援員が困難事例に関わるときも、それぞれの立場の正義が主張しあう中で、悩んで迷っているうちに、何が正解なのか分からなくなってしまうことが良くあります。でもその事はズババと正解を言い当てるより、より重要な事で、相談員として、人間として成長する場面でもあるのです。

また今年度も、のびやかをよろしくおねがいます。

GH



からの朝焼け



当世作業所事情 86

畑健次郎

「意思決定支援」をめぐるあれこれ——

3月15日、私たちはAさんの家に向かいました。訪問の前日も当日も、Aさんは来ないでほしいという意思を示していました。その一方で「自分は家族によって強制入院させられようとしている。何とかやめさせてほしい」と訴えます。

来てほしくない理由は「今は自分の気持ちをきちんと整理して話せない」からだと言います。

彼はおだやかで優しいような印象の人です。手先も器用で、調子のいい時は熟練の働き者です。

昨年の後半から今年にかけて、Aさんの調子の波はずつと下降気味です。最近では通院もほとんどせず、薬も飲んでいません。健康状態が心配になるくらい憔悴した感じですが。現場の職員をはじめ、精神科への入院には慎重な私のような人間も含めて、一度入院して生活リズムを整える方がいいと考える者がほとんどです。

自宅に行くこと、意外にすんなりと話し合いの場に着きました。彼は「家を出て一人暮らしを始めたらうまくいくと言います。

「コンビニに行くこともできない状態でうまくいくと思う？」との問いかけには、「ヘルパーの助けがあれば（大丈夫）」と応じます。一応の理屈は通っています。

しかし私たちは、久しぶりに作業所にやってきた彼が「家に帰りたくない」と言っていて、静養室に泊まる

ことになったのを知っています。

夜中に、今度は「家に帰りたい」と電話してきたのも彼です。

堂々巡りの話が終わってからしばらくして、私はグループホームの夕食を各ホームに届けるために車を運転して行きました。携帯の着信音が鳴ります。停車して履歴を見ると想像通りAさんからでした。

「入院を止めてくれ」という願いにどう答えていいかわかりません。そして、一度電話に出ると、その後の予定はずれていくことを計算に入れねばなりません。

とうとう電話をかけ直すことはしませんでした。

コロナ禍の下、ゆうとおんも単発の罹患者はポツポツと出ていましたが、運よくクラスター状態には至りませんでした。万一のために用意しておいた住居も、いつまでも無人にしておくわけにもいきません。

そんな時、Fさんの転居話が持ち上がりました。Fさんはずっと前から一人暮らしの希望をもっていました。ひよんなきつけかけからですが、昨年末から一人暮らしを始めることになりました。

毎日の様子伺いと食事の世話が必要なため、相談支援の担当者が、サテライトにできる住居を探しました。サテライトは、制度的にはグループホームの「離れの間」のような位置づけで、独立性の高い住まいです。

Fさんはワンルームマンションの暮らしに、最初はごきげんでした。

そのうち世話人との接点が、以前より少なくなったことが不安になります。同居していたメンバーとの会話が、ほぼ皆無になってしまったことにもさみしさを募らせます。

「グループホームに帰りたい」と訴えるようになり

ました。Fさん自身が招いた事情で、元のホームに帰れないことは本人も承知しています。

相談支援員を中心にあれやこれやと話し合いをすすめました。Fさんはますますふさぎ込んでいきます。

す。もともとグループホームに使っていた住居が、一つ空いたままです。そこにいた居住者が退去した後、

コロナ対策のために空けたままにしておきました。その住居を新年度からグループホームに復活させることになりました。

と、そこまで話がいったところで、その部屋が、2月下旬から3月はじめにかけて、はじめて活用されることになりました。

グループホームのSさんがコロナに罹患しました。彼女の入院には付き添いが必要と判定されそうです。それに今の大阪の状況では入院そのものが認め

られそうにありません。そこで3人の職員が24時間態勢で、看護を担うことになりました

レッドゾーンやグリーンゾーンも設けていましたが、Sさんには越境の対象ではありません。

それでも通常でない雰囲気を感じて、自分に割り当てられた部屋から、あまり動かない方がいいことは理解しています。身体より気持ちにかかるストレスがよ

たいへんといえ、その後、かわった職員が全員陽性になりました。3人の中では比較的高齢のTさんがついにダウンしてしまします。幸いなことにホテル療養が認められ、今は元気に現場復帰しています。残りの2人は軽症で、何とか「陽陽看護」をやりました。

その間、2人の抜けたホームのシフトは、日中作業所職員の応援で何とかやりくりすることができました。何の役にも立たない私は、サーカスの綱渡りを見ている観客の心境でした。

ホツとしたのも束の間、今度は別のホームのDさんの陽性が判明します。彼はむつかしい持病を抱えています。医療的な見守りの必要度がかなり高い人です。世話人が救急車を呼んで入院の要請をしましたが、なかなか行き先が決まりません。しばらくの間、救急車はグループホームの前で立ち往生です。吹田にある国立循環器センターでの受け入れが決まったと聞いた時は、安堵しました。

しかしそれだけでは済まず、彼の所属している作業所の班では、通所メンバーが2人、職員が2人の計4人の陽性が判明します。

コロナに関しては、金銭的には公的援助にかなり助けられたのですが、医療や人的支援の脆弱さを痛感せざるを得ませんでした。(と過去形で語って済めばいいのですが)

大阪に典型的ですが、いざという時の公的なセーフティネットが、どんどんはがされてきているのを実感します。保健所を削減してきたからなのか、保健所とのコンタクトも十分とれません。この間、無駄をなくすという名目で、文化に対する助成は削られ、公立病院も減らされ、公共交通機関も民営化されてきました。

大阪はコロナによる死者が全都道府県中、第一位です。そのことを恥ずかしいと感じる首長を持ちたいものです。カジノの誘致に夢中の、よく喋る政治家を見ていると、野心や野望のためなら、自分に都合のいい話だけをするブーチンと重なって見えてきます。

3月23日には合同職員会議がありました。各現場から、今年度の動きを踏まえたうえで、2022年度の取組みの方向性が語られました。

オンラインの会議で、熱量は測りかねますが、現場にいる職員の発言は届いてきます。現場からの提言を大事にするゆうとおんでありたいものだ、改めて感じました。

障害当事者の生きがたさにきちんと寄り添うにはどうしていけばいいのかということ、じっくり考える新年度でもありたいと思っています。

この仕事、国による「サービス」という位置づけから、もう少し自由にならねばと痛感します。

当事者の権利と人権を守るという観点から「良質のサービス」が必要だという人の主張には敬意を払いつつ、しかし「サービス」の延長線上に、「共生」社会があるとは思えません。

支援一被支援という一方通行の構造を越えていくための試みを模索していきたいものです。

民族差別や部落差別とたたかう主体は当事者だという主張はすっと入るのに、知的障害の当事者も、また主体だという主張は抽象的に了承されても、現場では「支援の必要対象者」の域をなかなか出ません。

就労継続支援B型の職員は「指導員」と呼ばれています。だれを指導するのか、何を指導するのか、悪意はなくても制度設計者たちの「管理」思想が垣間見えます。

そして「障害程度」によって分断された設計思想を、ごく自然に受け入れてしまっている私たちがいます。そうした優生思想を疑う所から、「共生」を探っていききたいものです。

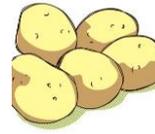
Aさんの話も、Fさんの話も現在進行形です。

当事者の意思決定支援は、以前から大きな課題です。私(たち)は深く考えることなく、当事者の意思を尊重するのは当然だと言ってきました。

いろんな現実の前で、意思決定支援とは何かと、改めて突き付けられています。

びおとーぶ はたけ
～ビオトープの畑だより～

あたたかい陽に誘われるように、じゃがいもが芽を出しました。ほうれん草と小松菜の種も蒔きました。大きくなあれ！



皆様、ご協力ありがとうございました。
2021 年の繰越金 5,250,205 円

2022 年に集まった協力会費 1,529,627 円 法人への直接カンパ 20,000 円

●協力会費を頂いた方々 (2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日 敬省略)

- 秋田貴久子 阿瀬修 荒川輝男 池田由紀子 石川増美 石橋史大 石原美紀子 井手口眞佐子
 伊藤章子 伊藤輝夫 伊藤美津子 稲垣寛子 鶴川雅基 内田健太 内田雅裕 宇都雪人
 浦堅美知子 浦堅良二 大下地恵子 大音英子 大野彰久 大畑久美子・喜一郎 岡村みな子
 小倉一郎 小崎美代子 小崎由美 川端利雄 川原邦夫 北浦加代子 喜友名奈津子 桐生佳子
 金城正利 窪田義廣 熊田佳希 黒瀬正 桑本克彦 甲田恭子 五十里元子 小林和弘
 小林憲司 小林誠 木挽晴斗 小松悦子 小森富美枝 小山広明 今野昌子 塚屋和夫
 サンボラム 下村啓子 小路梨恵 庄野久子 末光道正 高安イツ子 竹井勇貴 竹田栄宏
 竹中文太郎 田中誠太 田中正和 田中百枝 谷口恵美子 谷口圭一 田畑幸子 ちいろば会
 辻村真嗣 土橋恵子 筒井健一 鶴山忠 富澤久美子 富澤信行 長井豊子 中谷由美子
 中西友子 中西政信 中野栄子 中前友見 中村・西尾 (障大連) 新垣康男 西江尊徳
 朴愛子 畑健次郎 林千恵子 林竜児 原田晋子 福井克彦 福井仁美 福井笑子 福島正人
 福田和人 福田蓉子 福光萌子 福村清英 藤内昌信 藤田圭一 藤田隆利 古川晶子
 墳下智里 前田裕 松井潤 松嶋陽菜 松田健太 松田晴代 松田正和 松永伸夫 松野香織
 見谷涉 南憲一 南伸樹 宮崎弘子 宮島伸一 宮野直子 宮本明男 桃井百合
 森勇 八尾北医療センター労組 柚木琴音 吉川朝陽 吉武万喜子 和田優理子 金野昌子
 松村守 辻本亜希子

社会福祉法人 ゆうとおん

本 部 / 〒581-0834 八尾市萱振町 2-133 TEL 072-993-0785 FAX 072-993-0784
 ゆうとおんはーと / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-68-1 TEL 072-926-6200 FAX 072-926-6199
 ゆうとおんうゑーぶ / 〒581-0817 八尾市久宝園 2-30-4 TEL 072-926-1543 FAX 072-921-8883
 ゆうとおんほーぷ / 〒581-0834 八尾市萱振町 7-73-2 TEL 072-927-1300 FAX 072-927-1301
 スタコラハウス / 〒581-0802 八尾市北本町 1-1-11 TEL 072-995-4387 FAX 072-995-4387
 メールアドレス / youtone@live.jp ホームページアドレス <http://www.eonet.ne.jp/~youtone>
 年会費 / 1口 2.000 円 振込先 / 郵便為替口座 00910-9-106532

発行人 / 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4 階 定 価 / 50 円

一九九一年 九月三日 第三種郵便物承認 毎月(一・二・三・四・五・六・七・八の日)発行 定価50円